

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校定時制の課程は昭和 23 年の設置以来、「明るく生き生きとした学校生活を通して、真理と平和を愛し、勤労と責任を重んじる、心身共に健全な社会の有為な形成者の育成」を不易の教育目標としています。

「確かな学力」「豊かな人間性と規範意識」を身に付けた生徒の育成、「生徒支援と安全安心な学校づくり」をめざして、生徒一人ひとりを大切にして、「入ってよかった」と言われるような学校をめざしています。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成 (学習活動の充実)

個々の生徒に応じた確かな学力の育成と授業改善の取組み

- ア 生徒の学力に応じた教育内容を設定し、基礎学力の育成など、確かな学力を身に付けさせる。(授業理解度 2019 年度 90%、最終 100%が目標)
- イ ICT を活用した授業や主体的協同的な学びをめざした授業に取り組むなど、授業の質的改善を図る。
- ウ 校内の公開研究授業や研修を通じて、個々の授業力をさらに向上させる。
- エ 少人数展開・TTによるきめ細かな授業などをできる限り推進する。
- オ 生徒の資質・能力を高めるシラバス作成により、授業のねらいをはっきりさせ、生徒に付けたい力を意識した授業を行う。

2 豊かな人間性と規範意識を身に付けた生徒の育成

規律ある学校生活を通して、豊かな心を育成し、将来を切り拓く生きる力を育む

- ア 生徒の基本的な生活習慣や学習習慣の確立を指導し、規範意識の醸成に努める。(年間の生徒登校率を、2019 年度 85%以上にする。)
- イ 特別活動や行事を充実して生徒の参加意欲を高め、自尊感情(自己肯定感・自己有用感)を育成し、良好な人間関係づくりを指導する。
- ウ 全学年でキャリア教育や進路指導を充実させ、自己実現の意欲を喚起し、進学・就職を希望する生徒の進路決定率を 100%になるように努める。(進路決定率 2019 年度 90%以上にする。)
- エ 生徒の自主的な活動である部活動や生徒会活動の活性化に努める。
- オ 18 歳選挙権を見据え、社会の一員として求められる政治的教養や判断力を計画的に育成する。

3 生徒支援と安全安心な学校づくり

生徒の個に応じた支援と、生徒が自分らしく安心して通える学校づくり

- ア 健康安全教育や交通安全教育を推進し、生徒の健康増進と安全確保を推進する。
- イ 全教職員が一致した協力体制を構築し、問題事象等には、迅速で適切な対応を図る。
- ウ 人権教育を推進し、様々な人権課題の解決に取り組む。
- エ 高校生活支援カードの活用など、生徒情報の収集と共有化を図り、SC等の教育相談や配慮を要する生徒支援をスムーズに行う。
- オ 家庭、地域との連携を推進し、情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりに努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>☆学校教育自己診断アンケートについて、生徒用、教職員用は 10 月に、保護者用は 11 月に実施した。</p> <p>○生徒の評価から 生徒からは、気持ちよく学校生活が過ごせるようにという努力が感じられた。学校のルールを守る 84%、遅刻欠席しないように努力 74%と、高い割合を占めた。学校への評価は、生徒指導に納得 70%、行事工夫されている 64%、人権意識高まる 65%、社会ルール学ぶ 72%、いじめにしっかり対応 70%、進路をしっかりと考える 65%など、昨年より好転したものが多かった。しかし、相談できる先生がいる 60%、学校が楽しい 57%から、十分に対応しきれていない点も明らかになった。</p> <p>○保護者の評価から 保護者からは、回答数は 2 割ほどだったが、評価する項目が多かった。相談に応じてくれる 89%、部活動や行事熱心 93%、生徒指導に共感 94%、キャリア教育しっかり 88%、進路情報提供 82%、いじめ対応 86%の項目が良好で、学校への信頼感が感じられた。しかし、学校楽しい 70%、授業楽しい 72%と低く、ルールを守る教育 76%、落ち着いた環境 78%より、さらに学校としての取組みが求められている。</p> <p>○教員の評価から 教職員が日常的に話し合う 85%、評価を次年度に行かず 90%、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導 95%、教育相談体制が整備 90%、計画的な校内研修 90%、いじめに迅速対応 85%など、ここ数年の取組みで、教職員の意識も変わってきた。しかし、きめ細かなキャリア教育 70%、部活動の活性化 55%、到達度が低い生徒への指導取組み 50%など、定時制として多様な生徒への対応が求められる中、十分に対応できていないと感じている様子が表れている。</p> <p>全体として評価が好転する中、今後も取組みを進める必要がある。限られた教職員での対応になるが、外部からの支援も受けながら、今後も生徒の支援に努力する。</p>	<p>第 1 回 (6/22) 授業見学を行った上で、今年度の学校経営計画の内容と重点事項などを説明した。 ○授業見学から——生徒指導の新しい取り組みを始めた為か、スマホ使用は去年より減った印象。今後も取り組みを進めていただきたい。いじめの問題については、問題が起きてから対応していることが多いようなので、できるなら未然に防げるように取り組んでいただきたい。 ○学校経営計画について——学校の現状と取組について資料を用いて説明し、計画の了承を得た。</p> <p>第 2 回 (10/23) 授業アンケート(7月実施)、生徒用学校自己診断(10月実施)、生徒生活実態アンケート(10月実施)、教職員用学校教育自己診断(10月実施)の結果について説明を行った。引き続き、各分掌より現在の取組み状況について資料を示して説明した。 ○教務部 平成 30 年度使用教科書一覧を提示し特に異論は出なかった。 ○生徒指導部 いじめ防止指針について今年度、以前の物をベースに見直し作成し直した。いじめは放置すると増えてしまう。早期対応が重要であると考えている。大阪は他人をいじる事が多いので、いじめに発展しないよう注意を怠らないように。 進路指導部 インターンシップを今年から取り入れている。近く介護施設に実習に行った。12月に卒業生を呼び生徒と交流させ現役生の意識を考える場を設ける取り組みを新しく行う予定。卒業した先輩の話は興味を持つので、良い取り組みである。</p> <p>第 3 回 (1/25) 授業アンケート(12月実施)、保護者用学校自己診断(11月実施)の結果説明。 ○授業アンケートについて——7月実施分より全体として改善が見られた。どの項目についても数値が上がり改善している。 ○保護者用学校自己診断について——昨年度より、すべての項目について数値が上がり改善している。 ○本年度から始まった、新しい進路指導の取り組みは引き続き来年度も継続する。 ○学校経営計画について——学校協議会に於いて平成 29 年度・平成 30 年度の学校経営計画及び学校評価(案)が承認された。</p>

府立布施高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>個々の生徒に応じた確かな学力育成と授業改善の取組み</p> <p>ア 確かな学力の定着</p> <p>イ ICTの活用や授業改善による授業力の向上</p> <p>ウ 公開授業研究や・研修を通じた授業力向上</p> <p>エ 少人数展開・TTによるきめ細かな授業の継続</p> <p>オ 明確な授業作り</p>	<p>ア 生徒の学力に応じた学習内容を設定し、計画的に確かな学力を身に付けさせる。基礎学力の育成にゼロ時限を活用する。</p> <p>イ ICTなどを活用した授業、生徒の主体的協同的な学びを取り入れた授業を増やし、授業改善を行い、授業力の向上を図る。</p> <p>ウ 経験の少ない教員を中心に、公開研究授業・校内研修を実施し、個々の教員の授業力の向上を図り、わかりやすい授業をめざす。</p> <p>エ 少人数展開・TTのきめ細かな授業を継続し、理解しやすい授業づくりを推進する。</p> <p>オ ねらいの明確なシラバス作成、生徒につけさせたい力を意識した授業作りで、生徒にとって学習効果の高い授業を行う。</p>	<p>ア 基礎学力の定着が必要な生徒を受講させ、単位認定まで指導する。 H28 5人→H29 6人</p> <p>イ ICTを活用する教員数や授業数 教員数(構成比) H28 72%→H29 75%</p> <p>ウ 学期ごとに、授業力向上のための公開研究授業実施(年2回)</p> <p>エ 授業アンケートの活用・授業理解度 H28 77.2%→H29 80%</p> <p>オ 授業アンケートの活用・知識・技能が身に付いた H28 68.2%→H29 75%</p>	<p>(1)ア 担任団の協力を受けて指導を行ったが、受講者数を増やすことができなかった。(△) H28 5人⇒H29 4名</p> <p>(1)イ 主体的共同的な深い学びの実践のため、年間を通じて研修を実施。若手を中心として、アクティブな授業展開を行う教員が増え、ICT機器の活用者が増えて、授業改善が進んだ。(◎) H28 72%⇒H29 76.5%</p> <p>(1)ウ 初任者の授業公開に合わせ、全教員が参加した授業改善についての研修を実施し、アクティブ・ラーニングの活用にも努め、公開研究授業を活用して教案作り意欲的に取り組んだ。(◎) ※若手教師育成相互観察実施、公開2回実施</p> <p>(1)エ 授業アンケートを活用した授業改善に努めた結果、ほぼ目標に達した。(○) 授業理解：H28 77.2%⇒H29 79.1% 知識技能：H28 68.2%⇒H29 75.2%</p> <p>(1)オ 管理職による授業観察に合わせ、全教員に教案作成を指示し、授業観察を行った。(◎) ※全教員が教案を作成し、コメントを返した。</p>
2 豊かな人間性と規範意識を身に付けた生徒の育成	<p>規律ある学校生活を通して、豊かな心を育成し、将来を切り拓く生きる力を育む</p> <p>ア 基本的生活習慣の確立</p> <p>イ 自尊感情(自己肯定感・自己有用感)の育成と人間関係づくり</p> <p>ウ キャリア教育・進路指導の充実</p> <p>エ 部活動や生徒会活動の活性化(加入率の向上)</p> <p>オ 18歳選挙権を見据えた計画的な政治的教養の育成</p>	<p>ア 基本的生活習慣の確立 欠席・遅刻・早退・欠課(中抜け)の防止、規範意識の醸成・授業規律の確立(携帯使用、飲食、私語)学習習慣の形成を図る。</p> <p>イ 計画的な取組みにより、生徒の参加意欲を高め、コミュニケーション力の育成と他者との豊かな人間関係づくりを図る。総学・行事・HRなど活動を通じて育成を図る。</p> <p>ウ キャリア教育・進路指導の充実 進学・就職希望者に対する進路指導の早期からの充実を図り、希望者の卒業時の進路決定率を高める。ハローワークや外部機関と連携を深め、計画的な進路指導を行う。</p> <p>エ 部活動や生徒会活動の活性化を図り、主体的な取組や自尊感情高揚の機会と生徒を育成する。</p> <p>オ 政治的教養の育成を計画的に実施する。</p>	<p>ア 中退、再履修(留年)、長欠を各々10%低減する(目標)</p> <p>年間登校率 H28 80% → H29 82% 年間遅刻数(のべ人数) H28 8999 → H29 8500 中退(人) H28 21 → H29 19 再履修(留年)(人) H28 15 → H29 13 長欠(30日以上欠席)(人) H28 71 → H29 65 ※滞留生(長欠者)の在籍確認</p> <p>イ 学校教育自己診断・行事が工夫されている H28 68.0%→H29 75%</p> <p>ウ 相談件数や各学年向けガイダンス実施件数(各学年3回以上を計画実施) 就職希望者・進学希望者の進路決定率 目標：85%以上</p> <p>エ 部活動の活動状況検証 加入率40%台の維持(目標)</p> <p>オ 計画を作成し、地歴公民の授業内で、育成する。(現代社会で2時間以上扱う)</p>	<p>(2)ア 生徒指導部が中心となり、学校が一体感を持って取組めたため、年間登校率・中退数・再履修数・長欠数は、目標を達成した。(○) 年間登校率：H28 80% ⇒H29 82.9% 年間遅刻：H28 8999 ⇒H29 8982 中退者数：H28 21 ⇒H29 17 再履修者：H28 15 ⇒H29 8 長欠者数：H28 71 ⇒H29 43</p> <p>(2)ウ 外部機関を活用し、1年生から働きかけを強化した。卒業する生徒の就職希望者数・進学希望者数とも変動はあったが、就職試験を受験した者は、ほぼ8割を決定できた。(○) 学校就職希望者 15名中12名決定 進学希望者 3名中3名決定</p> <p>※地元の企業団体の協力を得て、新規の求人・採用先を増やしている。今後も地元企業と交流し、協力を得てキャリア教育を推進し、生徒の勤労観を高めながら、就職希望者の採用決定率を高める取組みを進める。</p> <p>(2)エ 行事の内容充実に努めた。年間行事の実施時期見直しで、調査を文化祭前に行ったため、この結果が反映できず、目標には届かなかった。(△) 行事工夫：H28 68.0%⇒H29 63.5%</p> <p>(2)エ 教職員の働きかけにより、外部の大会への参加、他校との合同練習実施など、部活動が活性化でき、目標を維持できた。(◎) 部活動加入率：H28 49.4%⇒H29 47.2%</p> <p>(2)オ 授業に絡めてICT機器等を活用し、計的に育成を行えた。(○)</p>
3 生徒支援と安全安心な学校づくり	<p>生徒の個に応じた支援と、生徒が自分らしく安心して通える学校づくりの取組み</p> <p>ア 健康安全教育の推進(生徒の健康増進と安全確保)</p> <p>イ 問題事象等への迅速で適切な対応</p> <p>ウ 人権教育の推進(様々な人権課題への取組み)</p> <p>エ 教育相談と配慮を要する生徒支援の充実</p> <p>オ 家庭、地域との連携推進と開かれた学校づくり</p>	<p>ア 健康安全教育の推進 薬物、性感染症、喫煙、防犯防災、虐待、交通安全等、重要課題について防災訓練や健康HR等を通じて啓発を図る。特に喫煙については、禁煙の指導を強める。</p> <p>イ 全教職員が一致団結した協力体制を構築し、問題事象の防止に努め、発生時には適切な組織的対応を図る。</p> <p>ウ 人権HRの充実を図り、生徒の人権意識を高める。教職員には校内研修等の実施により、人権問題への理解を深める。</p> <p>エ 教育相談の充実と支援コーディネータを中心とした支援教育のための校内委員会活動を展開するとともに、高校生活支援カードの活用や、個別の教育支援計画の作成を行う。</p> <p>オ 家庭、地域と連携して、保護者会活動を活性化させる。中高連絡委員会を核にして中学校訪問などにより情報共有を行う。広報紙の定期的な発行配布やHPの充実による情報発信を行う。授業アンケート、学校教育自己診断、生活実態調査を実施し、結果を学校運営に反映させる。</p>	<p>ア 生徒のHR出席率の向上 70%以上が目標</p> <p>イ 懲戒件数低減(目標) H28 4件→H29 4件以下を維持する</p> <p>・非常時には、准校長の指揮のもと、生活指導部長を中心とした組織的な指導体制で対応する</p> <p>ウ 学校教育自己診断 ・人権意識が高まる H28 52.6%→H29 60%</p> <p>エ 学校教育自己診断 ・先生に気軽に相談できる H28 68.6%→H29 70%</p> <p>オ 「布施定だより」の発行 生活実態調査の活用 ・学校へ行くのが楽しい H28 54.5%→H29 65%</p>	<p>(3)ア 担任団の働きかけにより、出席率は改善し、年間を通してのHR出席率は73.1%に達した。(◎) ※HR等での安全教育等の取り組みを充実し、課題としていた生徒の参加率を上げる事ができた。次年度では、さらに担任との信頼関係を増した上で、参加を働きかける取り組みを充実させる。</p> <p>(3)ア 教職員による防災訓練を毎年実施し、問題点の修正を行っている。今年度は、全定合同の教職員避難訓練を実施し、問題点の確認、マニュアルの修正に努めた。(◎)</p> <p>(3)イ 巡回指導は継続して行い、喫煙等の問題行動を未然に防いだが、件数は増加した。(△) H28 4件 ⇒ H29 9件</p> <p>(3)イ 非常時の対応を組織的に行うため、今年度も防犯防災マニュアルの見直しと、生徒指導部を中心に問題事象への対応方法の検討を続けた。(○)</p> <p>(3)ウ HRでの取り組みを十分に行い、成果をあげることができた。(◎) 人権意識：H28 52.6%⇒H29 64.6%</p> <p>(3)エ 教員数が減少し、各教員がさらに多忙になったためか、目標には達しなかった。(△) 先生相談：H28 68.6%⇒H29 60.0%</p> <p>(3)オ 「布施定だより」による情報発信は定期的に行い、保護者への年間1回の郵便物発送や、HP更新・学校メールの発送などと連動して、保護者からの評価を得た。(◎)</p> <p>(3)オ 登校する生徒の割合は増加したが、「楽しい」と感じる生徒は十分に増やせられなかった。(△) 学校楽しい：H28 54.5%⇒H29 57.5%</p>